

令和5年度第1回小牧市小中学校部活動検討委員会会議録

| | |
|--------|---|
| 1 開催日時 | 令和6年2月20日（火） 午前10時00分から |
| 2 開催場所 | 小牧市役所 東庁舎 本会議用控室 |
| 3 出席 | 加藤委員長、鈴木副委員長、前原委員、南委員、岩井委員、瀬尾委員、小澤委員、合田委員、新實委員、服部委員、坂下委員、福岡委員 |
| 4 欠席 | 和田委員 |
| 5 事務局 | 中川教育長、伊藤教育部長、矢本教育部次長、 ＜学校教育課＞ 吉田課長、采女管理指導主事、高堀指導主事、山下係長 ＜文化・スポーツ課＞ 藤田課長、高橋係長、永田主事 ＜スポーツ協会＞ 中谷ジュニア育成指導員、舟橋係長 |
| 6 傍聴者 | 0人 |
| 7 議題 | (1) 令和5年度の取組について (2) 今後の取組について |

＜開会 午前10時00分＞

1 開会

(吉田課長)

皆様、本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

定刻となりましたので、ただ今より、「令和5年度第1回小牧市小中学校部活動検討委員会」を開会いたします。

私は、司会を務めさせていただきます。小牧市教育委員会事務局学校教育課長の吉田です。よろしくお願いいたします。

＜資料確認＞

まず始めに、資料の確認をさせていただきます。

- ・次第
- ・資料1 「令和5年度の取組と今後の取組について」
- ・資料2 「中学校部活動の現状」
- ・資料3 「中学校部活動民間指導者数の推移」
- ・座席表

でございます。

不足などがございましたら、お申し出ください。

出席委員ならびに事務局職員について

本日の出席委員ならびに事務局職員につきましては、お手元でございます座席表のとおりでございます。和田委員におかれましては、本日ご欠席の連絡をいただいております。

傍聴について

本委員会は、「小牧市審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき開催するものでございます。そのため、個人が特定可能な議題などを除き、原則公開として開催させていただきたいと思っております。よろしいでしょうか。

(異議なしの声)

なお、本日のこの会議の傍聴者は、ございません。

それでは開会にあたりまして、中川教育長よりごあいさつ申し上げます。

(1) あいさつ

(中川教育長)

おはようございます。委員の皆様方におかれましては、大変ご多忙の中、早い時間帯からの会議にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。日頃は部活動検討、それから現場での部活動の運営等に様々なお立場でご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

さて、国の動きの中で休日部活動の地域移行について言われて久しいわけでございますけれども、小牧市におきましては緩やかな移行を目指し、地域移行よりもまずは地域連携から取り掛かっていきたいと考え、この会でご意見をいただきながら運営を進めてきたところであります。いよいよ来年度におきましては、動きをきちんととっていかないと全国的にも遅れをとっていくことが想定されます。明確に方向性を示していく必要があると私自身考えているところでありまして、そうしなければ子どもたちが行き場を失ってしまう可能性も危惧されます。子どもたちのニーズをどのようにくみ取って、学校外での活動の場を提供できるようにしていくか、その環境づくりが大事であると私は考えておりますので、あくまで子ども優先で考えていきたいと思っております。

全国的に同じ立場の方からさまざまな話を聞いていますと、極端なところは来年再来年のところで地域部活動にすべてを移行して、ネックとなっている中体連を脱退する方向で考えているという市町もあります。外部の競技団体等がネックになるのであれば、その見直しも含めて考えていかなければならないと改めて感じたところではあります。大会参加等、子ども達の発表の場を考えたときに、中体連や各種団体からの脱退は視野に入れておりません。ただし、本当にやりたい文化芸術、スポーツの活

動内容があるにも関わらず、それができないという状況は見直していかなければならないと思いますので、今日の会の中で本年度の取組状況について確認をし、次年度に向けて子どもたちのために貴重なご意見をいただけたらと思います。限られた時間ではございますが、よろしく願いいたします。

(吉田課長)

続きまして、加藤委員長よりごあいさつをいただきたいと思います。よろしく願いします。

(加藤委員長)

改めましておはようございます。昨年度より委員長を務めさせていただいております味岡小学校の加藤です。よろしく願いいたします。

昨年度、2回会議を開催させていただきまして、今年度はモデル校という形で実施をしております。事務局から今年度の活動につきまして報告があると思いますが、先ほど中川教育長先生からもお話がありました地域連携ということで、学校だけで解決できる問題ではありません。ぜひともスポーツ協会等も含めながら、さまざまな立場でご意見をいただければと思います。子どもたち第一で考えていくという中川教育長先生のお言葉もありましたが、子どもたちが活動できる場について、どのようなすれば一番いい場が提供できるのかも含めて、次年度への新しい意見や継続的な活動についての考えがあればと思いますので、忌憚のないご意見をいただけたらと思います。よろしく願いいたします。

(吉田課長)

ありがとうございました。

2 議題

(吉田課長)

それでは議事に移らせていただきます。議事の進行につきましては、委員長にお願いしたいと思います。加藤委員長よろしく願いします。

議題 (1) 令和5年度の取組について (2) 今後の取組について

(加藤委員長)

議題(1)(2)については関連がありますので、一括して事務局より説明を求めます。

<事務局より資料1を基に説明>

(加藤委員長)

事務局より今年度の取組と今後の取組について説明がありました。まず、今年度の

取組について、ご質問やご意見がありましたらお願いします。

(南委員)

今年度取り組んでみて、子どもたちや保護者の意見というのは何かあったのでしょうか。

(高堀指導主事)

今年度取り組んでみてどうかということにつきまして、個々の声はそれぞれの学校から聞いております。しかしながら、市全体として取組を振り返るようなアンケートや今後の取組に向けての調査については、具体的には実施できていない現状がありますので、早急に取組を進めたいと考えております。今後の方向性を考えるベースとなりますので、早急に検討していきたいと思っております。

(南委員)

ぜひお願いしたいです。子どもたちは発表する場がないとモチベーションもどこに向かえばいいのかとなりますし、親同士、他校になると知り合う機会もない中で、つながりが大事になってくると思います。いろいろな意見をまとめてもらえると助かります。

(加藤委員長)

今年度のモデル校が小牧中と桃陵中ということで、それぞれの学校で取り組んでみて、子どもたちの意見も含めて聞かせてもらえたらと思います。

(瀬尾委員)

小牧中学校では地域移行に向けて、資料1「取組を進めるにあたって」のところにもありますが、外部指導者を増やしていくことは必要であろうと考え、取り組みました。資料3「民間指導者数」について、平成31年度からの数字が、各学校載っています。小牧中学校は16、13、14、13と推移しておりますが、現在の外部指導者数は21まで増えております。地域移行していくときに指導者が足りないということがないように取り組んでいるところであります。

地域連携につきましては、小牧中と小牧西中との連携を模索しました。資料2を見ると、小牧西中に設置されていなくて小牧中に設置されている部活動がたくさんありますけれども、小牧西中の生徒が小牧中に来て参加してもいいとなると、受け入れる小牧中の負担だけが増えることとなります。そこで小牧西中からも教員を出してほしいとなると、そこには部活動がないため顧問がいないわけで、だれを出すかという問題になり、なかなか進められていない現状があります。お互いに部活動が設置されている中で、片方の人数が少ない状況があり、一緒に活動しよう、一緒に大会に出ようという形で、取り組むことはこれまでもありました。

(鈴木副委員長)

本年度モデル校ということで、女子バスケットボール部で篠岡中学校の生徒が本校の部活動に参加するという事例がありました。この生徒はかねてより地域の活動に参加しており、本校の生徒とも人間関係ができていた状況がありました。そのような状況下ではありましたが、モデル校としての取組ということで、篠岡中学校の生徒が土日の桃陵中学校の部活動に参加をし、夏の大会にもチームの一員として出場をすることができました。バスケットボールという競技の特性として何度でも交代してプレーすることが可能であったため、本人もその親御さんも本校の生徒も満足することができたというケースになったと思います。

(加藤委員長)

モデル校2校から現状を報告していただきましたが、それに対してのご質問やご意見があればお願いしたいと思います。

(小澤委員)

小牧中の課題として小牧西中の教職員の参加が難しいという話がありましたが、桃陵中と篠岡中の間では、篠岡中の教員が桃陵中に行って参加するということはあったのでしょうか。

(鈴木副委員長)

結果的にはありませんでした。関係性がすでにあっただことも影響していますが、送り迎えについては親御さんの責任のもとでという了解をとった上で、顧問としては篠岡中から参加せず、本校の活動に生徒のみ参加する形をとっておりました。

(加藤委員長)

今年度のモデル校の取組をふまえながら、6年度の案が出ております。ご質問やご意見があればお願いしたいと思います。

(岩井委員)

中川教育長先生のお話にもありましたように、子ども第一に考えて、かつ先のことも考えてということになると思います。運動部活動でチームスポーツだとすると、サッカーであれば11人、バスケットボールであれば5人が試合に出るわけですが、チームを組んだ時に、今までで言えば1チームしか大会に出られないのが、50人、60人といれば2チーム、3チームとでき、そういう子たちが年に1回なり2回なり大会に参加できる、モチベーションについての話もありました。あまりに強化に傾いたチームづくりが、これまでの部活動問題のネックになっていたと思います。中体連を脱退するという地域もあるというお話もありましたが、それにより子どもたちは大会参加の機会を失うことになるので、それはどうかと思うのですが、学校代表でない

いけない、1校1チームという考えが強化、過熱化へとつながってしまいます。1校1チームでなくて、将来的には地域のチームが出てもいいと思います。例を挙げれば小牧市のサッカー協会の中にもトレーニングセンターという広域で小牧市内から能力のある子たちが集まる組織があります。そういうところが強化として全国大会に出ていけばいいことであって、それぞれの学校のすべての子どもたちが参加できるような大会は市単位でも地区単位でもできるはずですので、そういう方向が私の思い描く将来的な地域部活動のあり方です。もちろん、平日の昼間に指導できる指導者は限られると思うのですが、たとえば小牧中は平日も外部指導者がいらっしゃるのでしょうか。

(瀬尾委員)

もちろん全員ではないですが、平日にみえる方もいらっしゃいます。

(岩井委員)

平日のあり方、土日のあり方、問題はいろいろとありますが、不可能ではないと自分は思っています。現実に合った部活動のあり方を模索していかなければならないし、すぐにでもある程度の方向性をつくらないといけないですが、最後に一つの例として、30年ほど前になりますが、海外視察という形でヨーロッパに行かせていただきました。イギリス、ドイツ、フランス、イタリアのいろいろなスポーツクラブを見てきましたが、ドイツのスポーツクラブがすべての子どもたちが活躍できるような形でした。ドイツには部活動はありません。学校が終わると子どもたちは地域へ戻っていきます。3時、4時に仕事が終わるといふ方々が地域で指導していましたが、デュッセルドルフは地域のクラブについて7～8ぐらいカテゴリがありました。いわゆる小牧でいうトレセンタイプで、デュッセルドルフのトップチームがある。ほかに能力別のチーム構成になっていて、どの子も力があれば上に行ける、下でやりたい子は下でやる中で、週末には地域間で同じカテゴリ同士で試合をするという形になっており、理想的だと思いました。

桃陵中、光ヶ丘中、篠岡中の3校が集まってできるのであれば、市内全部のトレセンチームがあって、全中大会のような大会に出ていく、それ以外は市内大会、愛日大会、県大会とかレベルごとの大会があってもいいと思います。一番のネックは1校1チームでなければいけないという全中の考え方であり、それを考え直してもらわないといけないと思います。複数のチームが集まって、いろいろなレベルで活動できるという形を目指せないかという思いが理想ですけれども、そんなことを考えておりました。

(加藤委員長)

6年度にモデル校における地域連携ですが、小牧中や桃陵中で、現時点でこの部活動で取り組むという考えはありますか。

(瀬尾委員)

具体的にこのような形で連携をとというのはまだありません。

(鈴木副委員長)

桃陵中も同じくで、今年のバスケのように、実際に参加希望の声があったときにどのように受入ができるかという話は校内でしております。その中で、希望者の人数が多すぎるといろいろと難しいという話が出ています。

もう一つの課題として、外部指導者の発掘を進める中で、その報酬について話題になります。外部指導者として来ていただける機会をつくっても、回数等の上限があるため、苦しいと思う場面はあります。

(前原委員)

岩井委員が理想の話ということで言われましたが、そのためには、その道に詳しくたり、技術的に優れていたりする地域人材、子どもたちを育てていきたいと考えている地域人材を確保していく人材バンクをつくって、まだ連携がスタートしていないところについても進めていく必要があると思います。子どもたちが手を挙げたときに指導者がいないという状況は避けたいと思いますし、部活動が設置されていないところで教員を出すというのは、本来おかしな話です。地域に眠っている人材はいると思いますが、事務局として見通しがあるのかを教えてくださいたいです。

(加藤委員長)

指導者確保について事務局どうでしょうか。

(藤田文化・スポーツ課長)

現在の取組といたしましては、公認スポーツ指導員の登録制度を進めていることと、小中学校の部活動への派遣に関しましては、指導者として登録して派遣をさせていただいているというものがございます。これから先の地域移行を考えた際には、これだけでは指導者の確保はたいへん難しいと考えております。まずはそこに向かってのスキームをきちんと形作ることが前提になると思いますが、地域の人材発掘や場合によっては広く市外から指導者を募るという方法も見据えていく必要があると考えております。

(前原委員)

やりたいと思っている方は私が住んでいる地域でもおりますし、地域には元気な年寄りがたくさんおります。通学路ボランティアだけがボランティア活動ではないと思います。体は動かなくてもノウハウを身につけているとか、子どものことをメダカ組ぐらいなら面倒みることできるというお年寄りはいらっしゃいます。人材活用をしながら、方向性だけはしっかりとしておかないといけないと思います。どこに向かってい

くのか、超エキスパートをつくっていくのはあまりよくないと思うので、メダカさんたちも泳げるように、キャプテン翼を目指しているよちよち歩きの子たちも受け入れていくような体制を目指す上で、そのためには人がいると思います。

(岩井委員)

まさにおっしゃるとおりで、例えば具体例を挙げると、サッカーのジュニア育成活動で指導者が全体で50人ぐらいいます。その中でトレセンを指導しているのは2割ぐらいです。残りの8割ぐらいの方々は、さっき言った全中に出て行くようなチームを指導してくれと言われたら、それでも引いてしまうと思います。さらに、地域の年配の方がみえた時に、私もですが、愛日で優勝しろ、県大会で、全国でと言われたら、体力も気力もないのでやれませんけれども、地域の大会でそういうチームがあるから顧問をしてくれ、指導してくれと言われれば喜んで行きます。ネックはそこなんです。強化を求められれば、やりたい人はガンガンにやりたいし、そこまでのものでないのなら協力できるという人もいるだろうし、サッカー協会で派遣してくれと言われた時に、中体連の今の体制で行くのならトレセンの5人なり10人なりしか行けないけれども、市内大会レベルでいいと言われれば、本人の意向に沿ってですが、あと40人、45人と派遣することができると思います。指導者の問題は20数年前からずっと同じことを言っているわけであって、どのような指導を求めるのかこちらが期待するものをはっきりしておかないと、そこが非常に重要であると前原先生の話で感じました。

(加藤委員長)

事務局として意見はありますか。

(高堀指導主事)

地域連携を進める中で、地域の力を借りながら目指す姿については最初にもお伝えしたように、子どもたちが文化芸術やスポーツに継続的に親しむことであります。小学校高学年、中学生の子どもたちのニーズをしっかりと把握しなければならないと思うのですが、休日にこんな活動をしたい、体を動かしたいという子どももいれば、大会に参加をしてみんなで上を目指したいという子どももいれば、いろいろなニーズがあるのが当然かと思います。そういう幅がある中で、岩井先生がおっしゃられたように強化とか勝利至上主義になってはいけないと考えております。広いニーズの中でも何を目標とするのか、何のための子どもたちの活動の場なのか見失わないようにしたいと思っております。

(加藤委員長)

指導者確保など課題はいろいろとあると思いますが、スポーツ推進委員の立場で新實委員いかがでしょうか。

(新實委員)

スポーツ推進委員はあくまでニュースポーツをメインでやっておりますので、各学校にある部活動に該当するような専門的な指導はできないものですから、ニュースポーツであれば私たちも協力は可能かと思えます。例えば、サッカーといった各種目について指導などの協力は難しいと思えます。

(加藤委員長)

そのほかいかがでしょうか。

(服部委員)

地域連携は基本的に土日だけですよね。そうすると平日の顧問の先生と、土日の先生との意見交換とか情報交換とか、そういった部分での難しさはどうなのでしょう。温度差があるとか向かっていく先の差が出てこないかなど、特に吹奏楽でかなり差が出てくるのではないかと心配しています。

(加藤委員長)

吹奏楽部で外部指導者に来てもらっていると思いますが、福岡委員いかがでしょうか。

(福岡委員)

吹奏楽の外部指導者につきましては味岡と桃陵でお願いをしています。なかなか日程が合わないなどお願いできない時もありますが、大学生も含めて今3人ぐらい来ていただいています。味岡中では、来年から囲碁・将棋、美術、家庭などの部活にもぜひということ、今進めているところです。報酬の関係等もありますが、動いていかないと何も進まないと思って、やれることをやっけていこうとしております。また、運動部については、部活がないところでの連携は難しいですが、人数が少ない、例えば、本校剣道部は2年生しかいない中で、クラブチームから出るという状況が、中小体ではまだ認められておりませんので、岩崎中といっしょに活動できるといいかなど考えています。また、野球部もたいへん人数が少なくなって、岩崎中が小牧西中とやっているとところに味岡中も入れてもらって、3校の運動場でぐるぐる回って、指導者も合同でやれたらと考えています。指導者である教員も子育て真っ最中の人もいて、交代でできるならそれもいいのではという話も出ております。うちの学校の部活とかうちの生徒といった考え方を、教員も生徒も保護者も地域も変えていかないと何も進まないと思っています。費用や時間など保護者の負担、保険や人間関係の構築など、さまざま考えた上で、子どもたちがスポーツをやりたいとか文化的活動をやりたいとか、得意なことを伸ばしたいとか、苦手なことにチャレンジしたいとか、取り組みやすい環境になっていくといいなと思えました。

(加藤委員長)

坂下委員、いかがでしょうか。

(坂下委員)

中体連の立場で3点について話をさせていただきます。

一つ目は、現在、文科省の部活動ガイドラインに沿って教員は部活動指導をしておりますので、平日に1日、休日に1日は休みを確保できているという状況は、子どもたちの健康を守るという意味でよい状態であると思います。ただし、中小体は土日も含めて大会があると、その疲れから月曜火曜は子どもたちの元気がないということは実際にあると感じています。

二つ目は、地域移行が進んだ時の健康管理の問題で、親御さんからよく言われるのは熱中症の心配についてです。どういう基準でやっているのかということをよくおっしゃられますので、地域移行を進める上で、子どもの健康を守るという視点は必要なことだと感じています。

三つ目は、実際に中小体を運営していくところで課題の一つは、水泳や柔道など、審判ができる人の確保についてです。運営は教員が行うとしても、競技のルールを知った人が審判としてやれるかということ、これはスポーツ協会と連携して進める必要があると思っています。

(加藤委員長)

合田委員、小牧中のサッカー部はいかがでしょう。

(合田委員)

指導者が眠っているという話については、サッカー部OBがよく練習に来てくれますが、改めて指導者やってみないかと聞くと、実は興味があったということで、OBが指導者になってくれたり、保護者の方にも声をかけたらやりますよということで、その方がまた他の方を連れてきてくれたりするなど、今年になって3人増えました。意識して動くことで指導者を見つけられると実感しました。

小牧西中との連携についてもイメージしながらここまでの話を聞いていましたが、小牧西中はしばらくサッカー部がなくて、小学校でみると、どこにもジュニアクラブがあって一生懸命やっている子たちがいると思います。中学校になると部活の行き場が無くて、ずっと問題だったと思うのですが、最近、地域の方によって小牧西中のグラウンドで活動するクラブチームができて、受け皿のような形で、部活ではないですがサッカー協会に登録して活動しており、地域のエネルギーを感じ、小牧西中校区の子たちがサッカーをできないという状態が解消されて、サッカー指導者として嬉しく感じていました。ここと連携するとなったときに、子どもの取り合いにならないように、しっかりとコミュニケーションをとって進めることが必要であると思って、先ほど岩井委員が言われたように、勝利至上主義とかそちらに向かって走ってしまうと、

子どもたちのプラスにはならないと思いますので、連携の大切さと難しさを想像しながら聞いていました。

(加藤委員長)

ほかにご意見があればお願いします。

(南委員)

みなさんの意見をお聞きして、今ちょうど親の世代なので、子どもは小学生から中学生に上がるにあたって、小牧西中はサッカー部がないので野球部に行こうかなという話をしています、また、上の子は野球部でしたが、強くなりたいと言ってシニアチームに行ったのですが、そこでは本当に強い人たちが多く、でも野球が好きとなると、部活という受け皿があると嬉しさもあって喜んで活動していたということもありました。私も講習などに行かせてもらって、親もそういった形で参加して、子どもの意見に接することができましたし、普段の姿では見えていないところが見える機会が増えて、親としても嬉しかったので、外部コーチの発掘のところで親に声をかけていただければと思いますし、講習会などがあるとありがたいと思います。

(加藤委員長)

ありがとうございます。取組を進めるにあたってニーズの把握について、事務局として今後の日程的なものがあれば、お話しいただきたいと思います。

(高堀指導主事)

現時点ではっきりとした日程までお伝えができませんが、こちらが勝手に絵を描いている状況だけでは具体的な動きが進められませんので、今後の取組の基となるニーズの把握については、早急に取り組みたいと考えております。

(加藤委員長)

全体を通して、委員のみなさまよろしかったでしょうか。

3 その他

(加藤委員長)

その他について事務局よりお願いします。

(高堀指導主事)

特にありません。さまざまご意見ありがとうございました。

(加藤委員長)

それでは、議事については終了しました。事務局にお返しします。

(吉田課長)

委員のみなさま、長時間にわたるご審議ありがとうございました。これを持ちまして、第1回小牧市小中学校部活動検討委員会を閉会いたします。

<終了>